



平成23年 3 月 1 日世界舞踊祭（国立劇場）の楽屋にて

ごあいさつ

財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 加戸 守行

このたび黛民族舞踊文化財団の理事長に選任されました加戸守行でございます。

昨年6月、設立以来一貫して当財団を支えてこられた犬丸直前理事長が逝去され、その後を受けて代行役を果たされていた大黒柱の大野晃常務理事も本年2月に逝去されるという不幸が相次ぎました。

実を申せば、私の文化庁次長当時に、今は亡き黛節子先生の熱き想いの構想に胸打たれて当財団の設立に助力した経緯もこれあり、また、黛先生没後に、昔の上司でありました犬丸前理事長から当財団の理事の一員（といっても愛媛県知事に就任してからは常時欠席理事）に加えて頂いたことであります。県知事退官後は自由の身を謳歌する予定でありましたが、緊急事態でもありますので非力ながら理事長職をお願いいたしますことといたしました。

黛先生の民族舞踊文化に懸けられた強き御意志を受け継ぎ、理事・評議員・事務局の皆様を始めとする関係者御一同の協力・御支援を頂戴しながら、当財団の歴史の継承・発展に向かって精一杯の努力をいたす所存でありますので、どうかよろしく願いいたします。

犬丸先生思い出



昭和23年 3 月 東京大学法学部卒業

昭和46年 6 月 文部省大学学術局審議官

昭和51年 6 月 文部省管理局長

昭和52年 9 月 文化庁長官（55年 6 月まで）

昭和55年 7 月 国立劇場理事長（60年 8 月まで）

昭和61年 4 月 東京国立近代美術館長（63年 7 月まで）

昭和61年 4 月 （財）黛民族舞踊文化財団 理事就任

昭和63年 5 月 伝統工芸品産業審議会委員・会長
（通商産業省）（平成 9 年 3 月まで）

平成元年 4 月 横浜創英短期大学長（平成10年 3 月まで）

平成元年 5 月 （財）ユネスコ・アジア文化センター理事長（平成 4 年 5 月まで）

平成 2 年 5 月 日本芸術院院長（平成16年 9 月まで）

平成 8 年 3 月 （財）黛民族舞踊文化財団 理事長就任

平成10年 4 月 横浜創英短期大学顧問（平成11年 3 月まで）

平成16年 9 月 日本芸術院顧問

・・・謹んで皆様にお知らせ致します。・・・

当財団理事長 犬丸直先生が平成 22 年 6 月 27 日（日）午前 10 時、心筋梗塞・老衰のためご逝去されました。27 日朝、珍しくスープを食され、その後穏やかに永眠されたそうです。謹んでご冥福をお祈り致します。

ご葬儀は、故人のご遺志もあり、ご家族近親者のみにてご自宅で、また犬丸家は神道ですので神官の采配によって執り行われました。奥様から故人の意思もあるので内々でと云われておりますが、とりあえず財団の理事、評議員の先生方にお知らせ致しました。

犬丸先生は、昭和 61 年 4 月より理事、平成 8 年 3 月より理事長をお務め下さって、いつもにこやかに行事をとりまとめて下さいました。ありがとうございました。

・・・犬丸先生を偲ぶ・・・

犬丸先生は、誠実な心の温かい素晴らしい人でした。日本の文化を広く世界に知らせ、日本の歴史、伝統文化こそ誇るべきものであるといつも言っておられました。

黛節子先生の民族舞踊を深く理解され、文化庁長官としてのお忙しい中にも拘らず、心から黛財団を愛され、応援して下さいました。高い識見をもたれ、行き届いた気配りで全てを包みこんで下さいました。本当に御尊敬する犬丸直先生。感謝の気持ちでいっぱいです。心からご冥福をお祈り申し上げます。

理事 安田 敬一

大野先生思い出

昭和33年 3 月 慶応義塾大学法学部法律学科卒業
昭和39年10月 日生劇場入社
平成 7 年 9 月 (財) 黛民族舞踊文化財団常務理事就任
平成 8 年 9 月 神奈川県立県民ホール館長
(平成22年 3 月まで)
平成11年 (社) 全国公立文化施設協会副会長
関東甲信越静地区公立文化施設協議会会長
(平成16年3月まで)
平成11年 神奈川県公立文化施設協会会長
(平成22年3月まで)
平成18年 (財) 鎌倉市芸術文化振興財団評議員
(平成22年3月まで)
平成19年 (社) 日本芸能実演家団体協議会理事
(社) 日本舞踊協会顧問
平成20年 日本舞台監督協会会長



《兼職》 (社) 日本芸能実演家団体協議会理事
(社) 劇場演出空間技術協会理事
(社) 日本舞踊協会顧問
日本舞台監督協会会長
全日本舞台テレビ技術関連団体協議会 (全技連) 幹事
国際民族芸術組織I.O.F.A (ユネスコB組織) 評議員、理事
舞踊作家協会常任理事
日本民俗芸能協会常任理事

《実務の実績》

昭和40年～平成 8 年 日生劇場制作作品の舞台監督を勤めウィーン・ブルク劇場、モスクワ芸術座、英国ロイヤル・シェイクスピア劇団、ノルウェー国立劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、中国上海舞劇団、西独デュッセルドルフ劇場、東京グローブ座に於ける英国イングリッシュ・シェイクスピア劇団、英国ロイヤル・シェイクスピア劇団、英国ロイヤル・ナショナル・シアター、スウェーデン王立劇場、仏国マドリガル・コメディ等々の訪日公演の日本側舞台総監督を歴任。又その間舞台の演出も手掛ける。
平成10年 4 月 黛民族舞踊文化財団団長として中国雲南省舞踏家協会の招聘公演で訪中。
平成11年 7 月 黛民族舞踊文化財団団長として昆明世界園芸博招聘公演で訪中。
平成12年～平成19年 黛民族舞踊文化財団団長として中国雲南省舞踏家の招聘公演で訪中5回。

・・・偉大な指導者と芸術家のご逝去を悼む・・・

かけがえのないお二人でした。犬丸直先生は、日本の伝統文化の顕現に献身された最高の指導者であり、いつも温かく優しい眼を、芸能に携わる人々すべてにそそいでくださった、慈父でした。

また、大野昭さんは、黛節子師の舞踊活動を支え続けた英邁なゼネラルマネージャーであり、彼女の鮮烈可憐な舞台創りを光彩あらしめた最高のディレクターでした。

さらにまた、舞踊界にとって、その前途を見据えての見事な舵取りが惜しまれる名プロデューサーでした。

理事 三隅治雄

温厚なお人柄で、財団をまとめてこられた犬丸理事長、節子先生の薫陶を受け、そのご意志の実現に強い意欲をもって取り組んでこられた大野常務理事、お二人が相次いで亡くなられたことは残念でなりません。心より感謝し、ご冥福をお祈りします。これからの財団は、節子先生、お二方のご意志を強く受けとめ、努力してゆかなければなりません。

がんばれ黛財団。がんばれ黛民族舞踊団！

評議員 鹿海信也

・・・大野さんを忍んで・・・

昨年暮れ、大野さんから黛節子民族舞踊団の仕事を、25年振りにたのまれ今年2月7日稽古場に行き元気な大野さんに会いました。体調が悪いと聞いていましたが、昔と変わらず大きな声で駄目だしをしていました。彼は昔から気が入るといつも声が大きく、甲高くなるのです。

ああまだまだ元気と思って安心しましたが、その7日後、彼は帰らぬ人となりました。あの稽古場では、最後の力を振り絞っていたのでしょう。

彼が全勢力を傾けていた黛節子民族舞踊団の稽古途中で逝ってしまった事は、残された人達は大変でしょうが、彼は幸せだったと思います。

評議員 沢田祐二

・・・大野 晃さんのこと・・・

大野さん、不思議な人でした。八面六臂、こんなところにもという場所でお会いすることが屢々でした。発病されてからも、とにかく忙しく活動される人でした。会議から会議へ、講演から講演へ、舞台から舞台へ、これが病人かというエネルギーで飛び回っておられました。多分、病気のことがあるだけに、やり残していることを少しでも多く片付けておきたいという想いが強かったのでしょうか。

最初にお会いしたのは、日生劇場の技術部長の頃だったのでしょうか。その印象は、木下藤吉郎のような、せわしない、チビ(失礼!)なおじさんだなといったものでした。この印象は、最後まで変わりませんでした。

その後、日生劇場で、黛アートサロンで、グローブ座で、神奈川県民ホールで、ご一緒する度に、多くのことを教えていただきました。どのような立場になられても、常に、裏方の、劇場で働く者の立場に立って、お仕事されていたことに感謝しております。舞台関係者が、取り敢えず1つの職業として認知される現在の状況を創った先達が、また1人、我々の中から欠けてしまったのは非常に残念です。

天国で、黛先生に「オオノチャン」と呼ばれて、ちょっと困ったような顔で、アドバイスされる姿が目に見えます。ご冥福をお祈りしています。

(株) クリエイション社長 船引悦雄

(順不同、敬称略)

・・・大野先生・・・

今年の世界舞踊祭は特別に国立劇場で行われました。一阿国礼賛・近世おどり絵巻―「桜樹散華」の上演を決めたときから、先生は「これが僕の最後の舞台になるのではないか」と言い続けていらっしゃいました。衣裳・かぶり物・扇・足袋の柄ひとつひとつまで先生がお選びになりましたね。先生の真摯なお姿に私達もいつにもまして懸命に稽古に励みました。2月13日―国立劇場舞台稽古の朝にかかった電話、「りかさん、ごめんね。今日はお医者さんに外出を許さないとと言われてしまったよ。」とおっしゃる先生に、私は「大丈夫ですよ。私たちががんばって踊ってきますから安心なさって下さい。」とお答えしました。すると先生は「君たちは皆、オッチョコチョイだから気をつけること。琉美さんに全体のバランスを見てもらうように。」とおっしゃいました。

無事に稽古を終え、舞台監督の八木先生、照明の井上先生、音響の八幡先生、衣裳の桜井先生と打ち合わせをし、次の日の3時にみんなで大野先生をたずねる約束をし、私が有明の病院内の大野先生のところに着いたのは、夜7時過ぎでした。先生はいつになくニコニコしてご機嫌なご様子でしたね。ご兄弟の方々に囲まれていらっしゃいました。今思えば、お医者様に皆様呼ばれていたのかもしれない。

「先生、無事にリハーサルを終えてきました。明日、先生方と一緒に3時に伺いますね。」とお約束をして帰る私を、いつまでもいつまでもニコニコと手を振って見送って下さった大野先生。翌日2月14日の朝、亡くなられたと連絡を受け、大変びっくりしました。

最期まで現役で仕事をしていらした大野先生。黛民族舞踊団の道筋をきちんと示して下さいました。私たちは先生のご遺志を継いで、今後もしっかり黛流舞踊を守ってゆきたいと思います。

先生、3月1日の公演は大成功だったのですよ。先生に見ていただきたかったです。いいえ、大野先生のことです。会場のどこかで見ていて下さったのかもしれないですね。どうぞ安心してゆっくりお休みになって下さい。

ありがとうございました。さようなら、大野先生。

黛民族舞踊団 一同

平成23年2月14日 死亡
通夜 2月17日 築地本願寺別院にて
告別式 2月18日 同

飾りきれない程のお花に囲まれて、大勢のご友人に見送られ安らかに旅立たれました。

ありし日の犬丸先生、大野先生



財団法人黛民族舞踊文化財団設立20周年記念の式典にて

犬丸先生（前列左）
大野先生（後列左から3人目）

世界舞踊祭 2011

平成23年3月1日（火）国立劇場小ホールに於いて世界舞踊祭2011が行われました。

黛民族舞踊団もこれに参加し「桜樹散華（阿国礼賛・近世おどり絵巻）」を上演致しました。黛節子前理事長がライフワークとして取り組まれていた「出雲の阿国」を装いも新たに再構成致しました。折りしも、今年は前理事長の17回忌に当たります。前理事長を偲びつつ、新たに二代目家元になりました 黛 琉美をはじめ黛民族舞踊団の団員一同、一丸となって稽古に励みががんばりました。

【黛民族舞踊団演目】

新修 桜樹散華（その3）

——阿国礼賛・近世おどり絵巻——

大 序 渡辺 浩風 曲

- | | | |
|--------------|--------------------------|-------------------|
| 1. しのはら踊り | ——吉野の里の花だより—— | 渡辺 浩風 曲 |
| 2. 小 原 木 | ——綾子舞幻想—— | 渡辺 浩風 曲 |
| 3. ややこ踊り | ——阿国の自慢・稚児(ややこ)の踊りは面白や—— | 渡辺 浩風 曲 |
| 4. 匂う袖、花のかたみ | ——鼓の若衆・春宵一睡の夢—— | 渡辺 浩風 曲 《想 夫 恋》より |
| | | 黛 琉美 振付 |
| | | 黛 李穂 作調 |
| | | 助川 敏弥 曲 |
| 5. 花 念 仏 | ——念仏縁起・衆生の鉦—— | |
| 入 端 | 助川 敏弥 曲 《桜の花唄》より | |
| 桜樹散華 | ——煩惱不捨・踊り明かさん花の下—— | |

【黛民族舞踊団メンバー】

団 員	黛 琉美	黛 智英	黛 莉香	黛 真也	黛 李穂
	平出 圭	伊藤みつ子	五月女華舟	田母神裕子	宇野あかり
	京本 千佳	長倉 多恵			
特別出演	青木 健	青山 達三			

【スタッフ】

作・振 付	黛 節子
構成・演出	大野 晃
照 明	井上 正美（エクサート松崎）
音 響	八幡 泰彦（エス・シー・アライアンス）
	小林 史（エス・シー・アライアンス）
舞台監督	八木 清市（ニケステージワークス）

皆様からのご感想

- ・世界舞踊祭ご苦労様でした。すてきな舞台よくまとめられて黛先生も喜んでいらっしゃるでしょう。
黛節子＝藤間節子の時代、藤間寿枝門下の姉弟子でいらして憧れていた後輩の私です。

舞踊評論家 西形 節子

- ・桜樹散華は、日生劇場での初演が忘れられません。華やかな舞台、お国時代のおどりが桜のもとで活力あふれる舞台でした。黛先生が一番輝いて見えました。桜樹散華は、また大野先生への追悼演目ともなり大野先生を偲ぶことが出来ました。

舞踊評論家 平野 英俊

- ・観るものすべてが初めての感覚で、観るままに感動して、美しさにみとれていたり、難しい所もあり、日本文化の奥深い所を観ることが出来て良かった。わからない所は、自分なりにストーリーを想像して涙が出そうになる所もあり、躍動感というよりも静の中にある魅力を感じました。海外からの舞踊も本当に美しい歌声で心があらわれました。桜樹散華、不思議な雰囲気タイムスリップしたような気分でした。

パーソナリティ 中島 直美

- ・踊りすばらしかったです。テレビ等、俗っぽいものしか見る機会がないのですが、日本の踊り（動き）がかくも美しく心をうつものだと知りました。
日本中国文化交流協会 横川 健
- ・口上からの導入はとても良かった。全体的にまとまりのある演出でプロの仕事という感じがしました。なかなか日本ではない舞踊団だと思います。桜樹散華は、舞踊の初め創生期の物語。この構成は他のアジア国に持っていくと良い作品です。
- ・阿国の出沒した時代にこんな華やかな踊りがあったのかとおもわれどんなに見る人に夢をあたえるでしょう。とても良かったと思います。
- ・全体の流れも美しかったです。今を忘れ夢の世界、とてもインパクトのある踊りでした。衣装とのバランスもきれいでした。
- ・赤のかぶり物が、とてもきれいでした。日本的な踊りで見ていてとてもワクワクしました。最後の花びらが舞っている風景が印象的でした。

世界舞踊祭で大きな拍手を浴びた黛民族舞踊団

- ・「しのはら踊り吉野の里の花だより」渡辺浩風曲、小原木－綾子夢幻想や、踊り－阿国の自慢、稚児の踊りは面白や－「匂う袖、花のかたみ－鼓の若衆、春宵－睡の夢」浩風作曲黛琉美振付、李穂作詞他。桜咲く待つ時季にピッタリの演目。全体に華やかな舞台で、出演の皆さんも各自懸命な舞台を見せてくれました。気づいたのですが、指導の方々が後方でちょっと見にくいと思いましたが、「若い方の晴れ舞台なので指導者は後方でよいのです。皆さんよくやってくれていますよ。これが指導者のよろこびなのです。今後の指導に熱が入ります。」と、この一言にあつい感動を受けました。泉下の先代さんもよろこばれていらっしゃるでしょう。
舞踊評論家 井上道代
- ・黛民族舞踊団の踊りをみて日本の民族舞踊の面白さがわかったような気がします。各地の伝統文化の中から生まれた喜楽を表現する踊りは西洋にはない独特なものだということがわかりました。故黛節子さんが阿国歌舞伎を練り直して創作されたという踊りはコミカルな動きで民族の喜びを軽やかに表現しているところが踊り手と観客が共有する何かを感じました。
毎回欠かさず観ている黛民族文化財団主催の日・中・韓民族舞踊交流会は共通の稲作文化を持つ三ヵ国が民族舞踊で共演する素晴らしい企画だと感心しました。
山根宏一
- ・桜樹散華愉しく拝見しました。ことに小原木は民族舞踊団として、文化庁の仕事で海外公演の折、私も踊ったものでなつかしく拝見しました。黛さま亡き後も結束され、成果をあげておいでの様子が踊りの呼吸にかんじられます。山三役の方が見事に鼓を打たれたのは驚きでした。まとまった良い舞台でした。
寿々方

（順不同、敬称略）



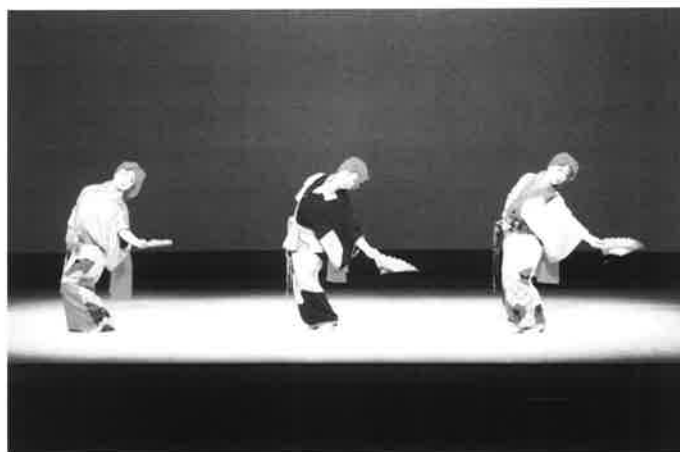
しのはら踊り



しのはら踊り



小原木



小原木



小原木



ややこ踊り



ややこ踊り



匂う袖、花のかたち



匂う袖、花のかたち



匂う袖、花のかたち



匂う袖、花のかたち



匂う袖、花のかたち



匂う袖、花のかたち



花念仏



花念仏



桜樹散華



桜樹散華



桜樹散華



桜樹散華

民族舞踊を子供たちへ ―群馬県太田市立錦打小学校― 2010年7月5日

2007年のアジア民族交流会で、中国・韓国の舞踏家に教わった、それぞれの国の舞踊をその年の秋の運動会で発表したところ好評を得たことがきっかけとなり、群馬県太田市立錦打小学校の川島校長先生の依頼で2010年には、日本の民族舞踊「はねこ踊り」を黛民族舞踊団が3年生に教えに行った。

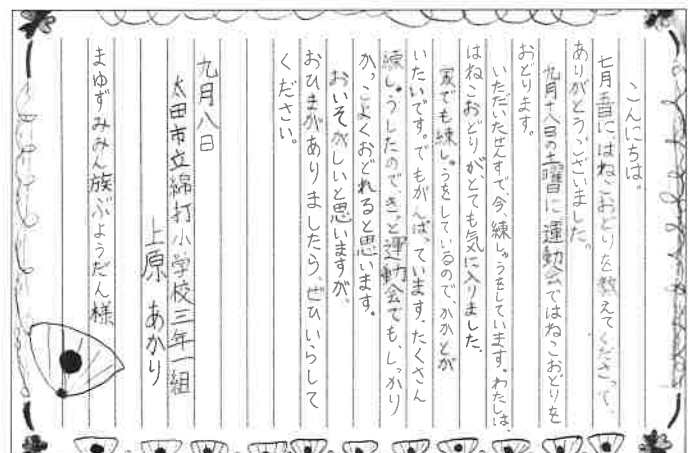
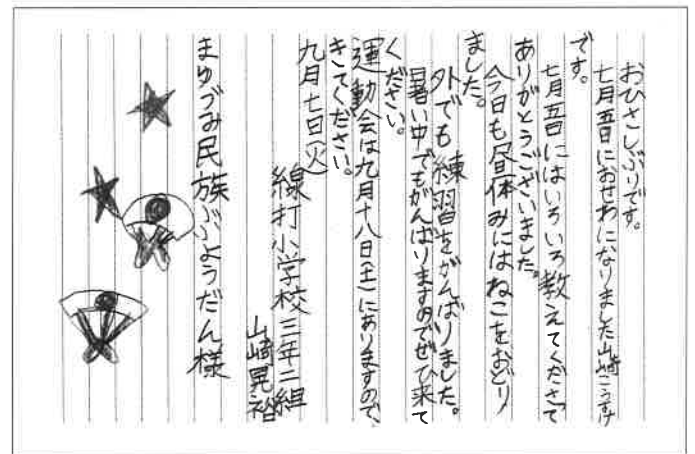
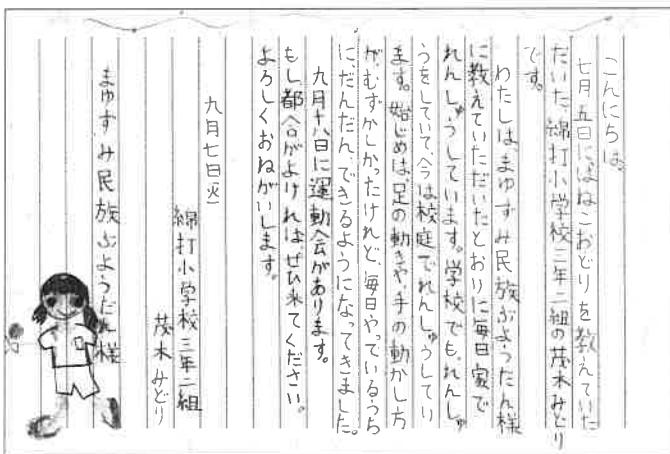
秋には、担任の小林先生指導のもとに3年生の生徒達は運動会でのびのびと踊っていた。

メンバー：黛琉美・黛莉香・伊藤みつ子・五月女華舟・田母神裕子・京本千佳



群馬県太田市立錦打小学校にて

小林先生より多くの感想文を頂きましたが、紙面の関係で一部しか掲載出来ないことが残念です。





苗代から苗を抜く怒族の娘。怒江峡谷沿いの斜面には見事な棚田が開かれる

財団法人

黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、(1) 民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2) 後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者(音楽、振付けを含む)、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3) 日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、(4) 世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5) 民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げます。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます。

民族舞踊文化 No. 23 2011年6月3日発行 発行人 加戸 守行 編集 財団法人黛民族舞踊文化財団事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F TEL 03-3583-3633(代)

財団法人黛民族舞踊文化財団

FAX 03-3583-3639

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATOKU, TOKYO